

生家の思い出に始まり、丁度この正月にお陰様傘寿を迎えるまでの思い出の記です。

第3種郵便物認可

平成28年の正月に、お陰様で元気で傘寿を迎えることができ、これを機会に記憶に残る事どもを辿ってみました。

私が生まれた昭和11年は、参政権など理想を掲げ衆議院選に完次叔父が立ち、立吉はそれにちなむものだった。祖母は結果を達観し次の一首を詠んだ。

荒畑に俄に時きし作り物買らぬとても理ぞかし

母は超多忙、私の敷き布団は万年床で畳みが腐り一カ所凹んでいた。

伝馬町の生家は、味噌醤油の蔵に続く二階建て築地があった。筆筒の抽斗には天保銭や

寛永通宝があり、江戸時代が直ぐそこにあるような家だった。写真に似た箱階段を登ると薄暗い棚には現役を退いたランプや、鯨の髭がふわふわと良く撓む弓張り提灯もあり、片隅には二三の武具があった。

東へ江戸町を曲がると、裁判所前の前島医院は藩医潮田家の旧屋敷だった。祖母は、別荘で次を

残し敗戦を知らずしくなった。

勿体なや國に尽くさんすべ知らず身に糊せんと焚火するかも

長火鉢に鉄瓶を乗せシンシンとお湯を沸かしていたが、助炭と称する細い木枠に障子紙を貼った箱を被せる

た。サイパン島が陥落する直前から米軍は謀略放送を始めた、飯田辺は比較的高級ラジオが多く良く聞こえた。記憶の方もおいでと思

います。祖父は、喜寿

郷に来て親父と春を惚けたり

を迎え次の一句を残し、翌年飯田の大火を知らずに他界し、大火に寒くなったある朝

# 傘寿の新春を迎えて

小塩立吉

省エネを奨励してい

後は一家が移り住んだ。

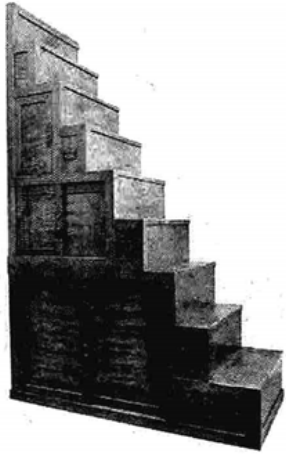
つすら初霜ではないか！「はえ凍みちまつらか。」と取るもの

喜寿迎え銃後の備え助炭かな

も取りあえず背負い籠を持ち出し総出での収穫だった。中学一年の晩秋のことである。

武蔵野は機銃掃射に見舞われ、飯田でも東部軍管区情報がラジオに割り込み、時に空襲

初霜に急ぎもぐ柿手に凍みつ



やがて成人して弱電の会社に勤め、幸い東京オリンピックの初の

として公開することができた。その時に詠んだ三首。

衛星中継や、日本初の衛星「おおすみ」の打ち上げにも貢献した。

武蔵人と新地の匠の縁にて完次の庵命再び

毎日毎日の無理が祟り

再びの命を得たるかの庵はくるめがすりを恥じらうが如

丁度折り返しの年大腸癌に罹った。三期りだったが克服し病み上がりで札幌の学会に出張した折り、恐る恐る花咲蟹一匹を注文した。

二人して理想語りし家なれば新地の町に夢育まん

花の如咲くてふ蟹を喰みおれば病癒えしを然と確かむ

丁度同じ頃飯田高校改築工事計画があり、宮沢芳重氏縁の天体望遠鏡も更新され、叔父は芳重さんとは親交があつたので遺産の一部を寄付させていただいた。

完次叔父の武蔵野の家は建築家遠藤新氏の設計だった。94歳で亡くなると甥姪が相談し、福島県新地町へ解体移築の話が纏まり「くるめがすりの家」

何ごとも晩生だった私は、還暦定年後拓殖大に拾っていただき、年甲斐もなくここで論文に取り掛かったのだった。その無理が祟り心筋梗塞に罹った。ここでも近代医学の恩恵を受け生還し、目的を遂げた。

完次叔父の武蔵野の家は建築家遠藤新氏の設計だった。94歳で亡くなると甥姪が相談し、福島県新地町へ解体移築の話が纏まり「くるめがすりの家」

時既に65歳、報告しようにも父が94歳で他界、母は97歳で静かに伏せていた。物には潮時があるものである。日野市国際交流協会のホームページ管理を頼まれたり、第九の合唱に出たり、ある会社の技術顧問を喜寿まで務めるなどしておりました。

ところが75歳で、突

然、完次叔父の残した禁酒同盟の事務局を預かることとなり、全くの異分野であり認知症予防に役立つております。幾度か病越え来し喜寿の眷子らが祝いの自転車を駆る。昨年は共々元気で菊華の侯に金婚を迎えることも叶い、野菜を多く栄養バランスに心掛ける家内に大感謝。およそ酒害から遠い生活をして来た性かなと思つております。お陰様で丁度この正月に傘寿を迎えることができました。

【東京都日野市、飯田市出身】

